

□私の意見

今こそ灘の酒の真価を

森本 直樹

〈灘五郷酒造組合理事長〉



灘五郷の酒造りは今、最盛期の真只中にあり、酒蔵は、立ち上る白い湯気に包まれております。阪神大震災から早くも2年が経過、今尚深い傷跡を残してはいるものの、ようやく元気が甦ってきたところです。

三百年余の伝統を誇る「灘酒の灯」を消してはならない―と強い決意と連帯感が、今日の復興の大きな力となりました。

昨年は、神戸のデパートで「元気です灘五郷」と銘打って、実演や試飲即売会を行い、秋にはポートアイランドで恒例の「薪能」を開催し、復興のアピールを行いました。今年もいろんな活動を続け市民の皆さんと交流の輪を広げて行きたいと思っております。

西宮の今津から神戸の太石にかけて50社を擁する灘五郷は、全国の約30%を占める日本一の生産量を担っております。酒造業界のリーダーとしてその使命感に燃えております。日本酒を取り巻く環境も大きく変わってきました。消費者の嗜好も最近の特長のある酒質を求め、その飲み方も燗から冷酒へと広がっています。酒の売り場もどんどんコンビニエンス化して若い人達に受け入れられる陳列が試されています。リキユールやカクテルといった新しい酒類が注目され、日本酒も外国産清酒の輸入が囁やかれるように、まさにグローバルな大競争時代が進行しています。今こそ、灘の酒の真価を発揮する時ではないかと考えております。美しい清冽な宮水、豊かな米、そして伝統の技、これらに裏付けされた灘の酒は、日本を代表する伝統文化産業であります。気候風土に根ざした酒は、人との出会い、語り、そして営みに欠かすことは出来ません。信頼され愛される品質向上の酒づくりは勿論ですが、21世紀の新時代に向けた情報発信と多彩な商品展開で、清酒の新需要開発に向かって取り組んで参りたいと思っております。

酔眼流旅日記

第8回

ベトナム青春旅行（一）

村松 友視 〈作家〉

人唯本灘／カット
筆者／題字

一九六六年の暮れ、二十六歳の私は羽田空港を飛び立つエールフランスの機内にいた。

どうしてこんなことになったのか：それがよく分からなかった。今年は激動のベトナムに行つてやると、この年の正月に宣言して、それを守っているというだけの感覚だった。当時、南ベトナムには、四十万人のアメリカ兵が派遣され、南ベトナム政府に援護していた。というよりも、もはやアメリカがベトナムと呼ばれた南ベトナム民族開放戦線、いや北ベトナムと戦争しているような様相を呈してきていた時期であり、南ベトナムの首都サイゴンには、ベトナムのゲリラによるテロが日常茶飯事という、戦場の街と化していた。

世界のマスコミが、アメリカのベトナム侵略を非難していた。アメリカがベトナム戦争に介入したことによって戦争がエスカレートし、ベトナム人民を悲劇のどん底に追い込んでいくという批判だった。日本にもそんな空気は影響を及ぼし、街を歩けばベトナム反戦デモという季節となっていた。

私は、そういう空気に何となく馴染まなかった。思想的にどうのこうのというのではなく、デモに行

きカンパをすればベトナム反戦に加わっているという筋道に、どこか嘘くさい感じを受けていたのだった。だからベトナムへ行く……。この短絡的な発想によつて私は羽田を飛び立ったのだが、まあ、二十六歳くらいの青年の思いつきとすれば、他愛がないという感じがなくてもいい。

私は二、三日前に南ベトナムのタンソンニエット空港が爆破されたという記事を読んでいた。新聞の一面に、大きな活字で「タンソンニエット空港爆破」と印刷されていたのだから、読むも読まないもないという大事件だった。だが、そんなことは自分と関わりないと思っていた。

ところが羽田を出発してしばらくしてから、自分の行先であるタンソンニエット空港と、サイゴン空港が同じエアポートであることを知ってしまった。そして、サイゴン空港へ着陸したときに窓越しに見た空港の建物には、「タンソンニエット」と大きく記されていて、それはもう動かしがたい事実と知ってしまったのだった。

このままパリへ行つてしまおうか：そんな気さえ起こったが、そこで降りるしかなかった。通関のた



めの列を探すのだが米兵のための出口とビジネスで入国するための出口しかなく、観光者用の出口などあるはずもなかった。いま真正正銘の戦争をやっているところへ、観光ビザで訪れるアホなんてあり得ないのだ。しかし、会社から派遣されたのでもなく、勝手に飛んで来てしまった私は、観光ビザしか持ち合わせていなかった。

米兵は私の目のあたりにベルトがあるくらい巨漢揃いだった。その列にならんでも仕方ないと途中で氣付き、脇の通路へ出るとすんなり外へ出てしまった。しかし、ハンコのないパスポートで外にでるのはヤバイと思い直し、もう一度内側へ戻って四苦八苦して入国した。

外へ出たものの、当時のベトナムの通貨であるピアストルに換金する場所などあり得ない。困っていると、アオザイを着た若い女性があらわれ、ドルをピアストルに換えてあげようと言った。わたしはかなりごまかされたのを承知でその女が換金してくれたピアストルを受け取り、サイゴンの街へ行くのはどうしたらいいのかとたずねた。女は、バスがそこにあるから、それに乗って行けばよいとバスの停留所を指さした。

分かった…という笑顔をつくってアオザイの女と別れ、私はバックの中からウイスキーを取り出して口へ持っていった。不安と怖れの入り混ったウイスキーの苦味は、なかなかのものだった。

（むらまつ・ともみ）一九四〇年東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。「小説中央公論」「婦人公論」「海」編集部員を経て、八一年退社。八二年「時代屋の女房」で直木賞受賞。主な著書は『私、プロレスの味方です』『百合子さんは何色』『アブサン物語』『激しい夢』など。



★編集長インタビュ①

震災3年目3月4日にデビューする

国際会議場ポートピアホール

日本初の民間が建設 中内力社長に聞く



本誌・小泉編集長



高速道路も倒壊し、ポートライナーも橋脚が壊れたまま、市内のビルの多くが全半壊したままの状況ですから、新しいコンベンション・プロジェクトには取り組めないという返事でした。

震災から2周年。3年目を迎えた3月4日国際会議場ポートピアホールがオープンする。コンベンション都市づくりを提唱して15年目。震災の中から立ち上がり、日本で初めての民間による国際会議場の竣工である。中内力社長にインタビューしてオープンの抱負を伺った。

★震災特例第1号になった 民活による国際会議場

——いよいよ開館ですが、感慨深いものがないですか。

中内 震災の年に神戸市で2000席の会議場づくりが内定されていたのです。それがあの大地震に遭遇しまして、3月頃、笹山市長にお伺いすると当然無理だね、凍結だということを確認したのです。当時は、

で、民活を株式会社でも認可される可能性があるとの情報が入ってきました。運輸省や、通産省へお願いに行きましたら、震災特例第1号ということになったのです。それで昨年の1月に着工しまして、工期が14カ月、いよいよ3月竣工にこぎつけた訳です。

——私も1月16日の震災前夜に、嵯峨御流神戸所吉田泰巳先生の新年会がここで開かれ、7時頃、震度1の立て揺れの地震があった。イヤな予感がしたのです。

中内 地震の朝、私も6時半に家からここへ到着しましたが、三宮の惨状と高速の倒壊や、ポートライナーの高架がないという凄惨状況を見てきた後だったので、ホテルが真っすぐ建っていたのに感動しましたね。それにロビーのアトリウムにかかっているステンドグラスも1枚も割れていないのに驚きました。これは1050本の岩盤までの杭打ちのおかげでしたね。また、このホテルが地下2階まであって、その空間の浮力により、ビル全体を浮かしている構造が良かったのです。

350人のお客様が大宴会場に避難されていて、電気は止まっていたけどコールドの食材で朝食を出しました。帰りを急がれるお客様には、当日は取材で東京や大阪からやってくるヘリコプターの帰りの便でボ

ートアイランドのヘリポートから大阪へお送りしました。翌日の午前11時半Kキャットのジェットシャトルが運航されましたので、船便で関空から皆様に帰って頂きました。

ガラシとしたホテルは、アガサ・クリスティの推理小説にありますが、「そして誰もいなくなった」という感じでした。従業員200人、お客様はゼロ。当社はじまって以来です(笑)。

国際会議場ポートピアホール完成予想図



このガラシとしたロビーにいつお客様が帰って来られるか、何か対策を考えなくては、観光とコンベンションの2本立てでやってきた集客産業ですが、観光客はその気になるまで時間がかかる、しかしコンベンションは、主催する方が、神戸でやろうと計画すれば、5000人、20000人迄、2・3日間滞在されるので、集客はこちらからだと思えました。そのためにはどうしても20000人収容規模の国際会議場の建設が必要になる。しかし、さきほど言ったように行政では当面難しいので、国際会議場の民間での建設の研究を始めました。まあ日本始めてですが、都市間競争にも負けられない。そこであえて挑戦した訳です。――さすが中内社長の一歩乗り感動しましたね。

中内 政府の方々も、頑張つてやつてくださいと激励されました。また震災復興支援ということで「神戸で会議を」と日本アセアン経営者会議、日本マレーシア経済協議会など開いていただきました。とにかく神戸での消費していただかないとビジネスになりません。まず神戸へ来て頂かなくてはね。

2月25日には、水道が復旧して営業を再開できましたが、それまでガス・電気の復旧作業工事の方々の宿泊はさせていただきました。一番困ったのはトイレと風呂の水で、幸い当ホテルのプールが2つあり、その水を選んで何とか切り抜けたんです。いつもプールには水を一杯いれていかなんと思いましたがね(笑)。

―ポートピアホールの開館は、コンベンションもさることながら文化催事もできると期待しているのですか。

中内 6カ国の同時通訳ができる会議場で

すが、コンサート対応もできる反響板や音響の機能は揃えてありますので多目的にご利用いただけると思います。

コンベンションは国際競争時代に入っています。日本が、香港が、マニラが、シンガポールかという選択の中で誘致の競争をしています。神戸は震災前年に、全国第3位から5位になってしまったので、厳しい状況であったのです。この国際会議場の完成で第3位に再浮上したいですね(笑)。

ポートアイランド第2期で、スーパーコンベンションがあり3500席の会議場もつくる計画です。3000席、7000席、この1700席と、色々の施設が揃いますので、日本の中央にある神戸は、アクセスがいいし、外国からも来やすいので、神戸の街のイメージや魅力も充分なので頑張りたいですね。

3月6・7日には、全国の経済同友会の会議が開かれます。神戸の復興を見ていただくことになっております。観光は昨年関西三都夏まつりの一つとして、神戸まつりが全国版になりましたし、ルミナリエも第2回目では昨年情報発信も早く、380万人と経済効果も上がりましたね。光りのイメージは、坂の街神戸にとり最高ですよ。それに来年3月には、明石海峡大橋がかかるので話題も明るくなるのでいいですね。観光も楽しみです。

―震災から3年目の決意はいかがですか。

中内 エンタープライズゾーン、キメック、阪神・長江交易促進プロジェクトなどが誕生しましたし、復興の大型プロジェクトのメニューも出揃ったところで、経済情勢は厳しいのですが、今年は具体的にむけて取り組む年、復興本番の年ですね。

地域文化論

〈その200〉

アルプスの麓

電力と博物館群のまち

—信濃の大都市—

米花 稔

(神戸大学・福山大学名誉教授)

秋たけなわの木曽路から信濃の大都市に入る。経営研究のグループで、東京電力の新高瀬川発電所などを視るために。北アルプス連峰の溪流を集めた高瀬川はやがて犀川そして信濃川をへて日本海へそそぐその高瀬川にのぞむ大町に、大正末期からの五の小発電所を再開発した昭和五〇年代の高瀬、名倉二大ダムなどによって一二八万kWの大揚水式発電所の視察であった。その大町市が興味深い。

市域の面積四六〇方軒大坂市のほぼ二倍、人口は三万一千人。オーストリアのインスブルックを姉妹都市とするように、アルペンルートへの入口のひとつとして登山者にはなじみでも筆者は初めてである。市域に槍ヶ岳から北アルプスの山々の一部を含み、岩石や砂利を積みあげた東洋一のロックフィルダムを見、霞ヶ関ビルを横にした規模の山中をくりぬいた大規模の発電所をみたあと、「水

と電気の高瀬川テブコ館」にそれらを説明する展示を見学した。そこでさらにこの小さな町に一〇をこえる博物館群のあることを知る。上杉謙信と武田信玄にまつわって知られる「塩の道博物館」地酒ワインづくりからか酒蔵の「酒の博物館」「郷土玩具博物館」「大町市民俗資料館」のほか、劇団四季の歩みを示す「四季演劇資料館」「富永一朗おおまち漫画廊」「アメリカの作家の「ヘンリー・ミラー美術館」さらに「大町山岳博物館」「アルプス温泉博物館」「東山低山菜野外博物館」など地域の自然と文化にかかわるものが図示されていて驚いた。残念ながら日程の制約で「テブコ館」以外は足を伸ばせなかった。思うにここに立地する電極工場、紡



ロックフィルダムの高瀬ダムと槍ヶ岳

績工場など構造改革による縮小、人口減などに対して、地元の個性的な活性化施策のあらわれであろうか。是非再訪したい。

もうひとつ印象深かったのは、大町市からすこし南の朝日村の同じく東電の新信濃変電所である。首都圏への送電のためとしては規模は大きくても珍しくないが、あわせて日本の東西の周波数変換の施設のあることである。明治大正わが国の電気事業導入に際し、東日本がヨーロッパ系の五〇ヘルツ、西日本がアメリカ系の六〇ヘルツ、それが今に続いているが、電力の広域融通のための周波数変換が昭和五二年からここで行われている。ここ信州の一部で、東西日本の自然、歴史、文化の象徴的なひとつの接点を見る思いがしたのである。信州の小さなまちできわめて刺激的ないろいろの印象を与えられた一日であった。



数多くある博物館のうちのひとつ「高瀬川テブコ館」

熊田忠夫著

いま立ちあがる住宅革命

ダイヤモンド社より刊行



「阪神・淡路大震災の被害があまりにも大きく、悲惨な現状を目にして、日本式住宅工法に怒りと悲しみがあふれた。

六千人を超える死者が出たのは、ほとんどが家屋倒壊による圧死で、これは人災だ。」

と語る熊田忠夫さん（61）は、戦後50年、土地のみを偏重してきた住宅軽視を身につけてしまった日本人の価値観が、阪神大震災の大被害は住宅文化をなおざりにしてきたツケがきたという。

この教訓のなかから、強く丈夫な家建て、建てたのちも家を「いたわる」ことが社会常識として定着してゆく住宅文化を育み、国際的視野をもって、安全で快適な高性能の住宅、住空間、住環境を新しく形成する必要がある。

いまこそ国際化された輸入住宅の文化が日本に必要だと「北米住宅文化導入」のすすめを熱血ホームビルダーが「住宅革命」への道と提起した一冊。（ダイヤモンド社刊・1400円）

昭和10年。但馬のスキー客が常宿にした旅館に生まれ、建築業にたずさわる父親のもと、神戸高校を卒業し、福井大学工学部建築学科

を出て（株）戸田組に入社した。

父親が進駐軍の将校宿舎を建設したとき、住宅（兵舎）の検査の厳しさを常に口にして、アメリカ文化の厚みに感心していたそう。

その父親の影響を受け、アメリカの豊かさの洗礼を受けた熊田少年は、北米住宅へのあこがれを無意識のうちに描いた。

1964年に初渡米。何度かの海外住宅視察で、北米の2×4工法住宅、北米住宅生産システムの魅力にとりつかれた。

北米におけるホームビルダーは地域の住宅建設の中心的担い手として活躍し、地場産業をなしている。地元神戸において、復興住宅建設を目的としたホームビルダーK・I・Hを営みながら、日本に本格的な北米住宅を定着させるために日々情熱を傾ける熊田忠夫さんの著した「いま立ちあがる住宅革命」は、よみがえる神戸の街への「天の声」のように思える。（小泉美喜子）

★熊田忠夫さんの出版を祝う集い

震災二周年を過ぎ、春を待つ復興の街 K O B E。

このままでは日本の住宅はダメだと、地元神戸で、大震災あとの住宅復興に輸入住宅建設を提案する熊田忠夫さんは、熱血ホームビルダー。その熊田さんが、この度、ダイヤモンド社より「いま立ちあがる住宅革命」を刊行されました。

3月1日（土）の昼さがり、午後2時30分よりトア・ロードの神戸外国倶楽部におきまして「熊田さんの出版を祝う集い」をtea&wineで催したいと存じます。国際住宅について語り合うひとときに、是非お誘い合わせのうえご参加ください。

と き／3月1日（土）

午後2：00受付開始

午後2：30～4：30まで

ところ／神戸外国倶楽部

TEL.078-241-2588 神戸市中央区北野町4-5-1

会 費／5,000円（tea&wine&軽食）

■プログラム

午後2：30～3：00 ミニ講演「アメリカの最新住宅を語る」講師 熊田忠夫

午後3：00～4：30 tea&wine&軽食&JAZZsong

発起人／大角晴康 福田辰雄 山田寛治

清水 豊 藤本忠生 高田英治

大海一夫 長田正弘 浪先厚夫

ウェルフ・ウェクリー 小泉康夫 大見郁夫

世話人／トム・ガルトン 宮本靖子

片山みか 小泉美喜子

事務局／月刊神戸っ子

〒650 神戸市中央区下山手通3-1-18ツインズトアビル4F

TEL.078-331-2246

FAX.078-331-2795



〈はたさき ひろし〉
1936年兵庫県津名郡生まれ。(株)光商会(現(株)エンバイヤー)入社。
59年、(株)ワールド設立 専務取締役。72年、(株)ワールド代表取締役社長。
神戸経済同友会幹事、日本ファッション協会理事就任。

■酒特集① 横綱酒徒対談

酒は人間を正直にさせる

西・経済人／横綱 畑崎 廣敏 (株)ワールド代表取締役社長

東・文化人／横綱 谷川 浩司 将棋連盟棋士 竜王

四段で酒公認の将棋界

—まず、お二人の酒歴から。お酒を飲み始められたのはいつごろですか。

畑崎 ぼくは何でも、やったらいかんと言われるとやりたくなるほうでね。高校時代って、先生が酒は飲むなと言うでしょ。すると、ようしそれならいっぺん飲んでやろう、となる。そのあたりからかな。

谷川 将棋界では四段になるとプロ、つまり対局してお金がいただけようになるんです。三段までは半人前ですから、先輩も酒を勧めるなんてことはあまりないのですが、四段になると一人前として認められるので、酒もよしというところがあります。

畑崎 谷川さんは、中学生で四段になられたんですね。ということとは…。まさかね。

谷川 ま、そのへんは笑。もう時効ですから。



〈たにがわ こうじ〉

1962年4月6日神戸市生まれ。5才で将棋を覚える。73年5級で若松政和六段に入門。83年6月15日加藤一二三名人を4勝2敗で破り史上最年少の21才で名人位を獲得。九段。現在、竜王。名人4、竜王3などタイトル獲得数は計21。

畑崎 将棋はいくつくらいから？

谷川 幼稚園のときに初めて駒をもちました。

畑崎 お兄さんも将棋をなさるんですね。どちらが強かったですか。

谷川 兄のほうがいつでもだいたい、少しづつ強かったですね。年が五つ離れているんですが、その点もわたしにとっては良かったと思います。力量も年齢も、あまり離れ過ぎていると相手になりませんから。ちよつと強い相手がすぐそばにいて、ときどきはこちらでも勝てるというのが自信になり、力をつけるということにもなつたんだと思います。小学五年生で奨励会に入つてようやく兄と同じレベルに達しました。

畑崎 その年ごろというのは、やはり頭が柔軟なんでしょうね。覚えも早いでしょう。

谷川 それはありますね。将棋を始めたときも、すんなり覚えられましたし。やはり、大人になってから始めるというのはかなり大変だと思います。

畑崎 会社の創業間もないころは暇でね、ぼくもちょいちょいやつてたんですよ。これを機会にまた始めるかな。頭の体操にもよさそうやし、雨でゴルフが流れたときにも代わりになるし(笑)。

谷川 将棋はいくつで始められても、有段者にはなれると思います。プロは無理ですけど(笑)、アマチュアで初段くらいになつたら、どなたと指されてもいい勝負ができるし、プロの対局をご覧になつてもひと味違った楽しみができますよ。

畑崎 そうですか、やってみるかなあ…。それにしても、谷川さんは二十歳で史上最年少名人になられて、今三十四歳でしょ。すると、もう二十年プロの世界でやつてこれれたわけですね。すごいもんやね、その若さでひとつの道を極めるというのは。

谷川 いえ、まだまだ極めたとは言えません。でも、勝負の世界の中では、将棋は寿命が長いほうですね。わたしも、少なくともあと二十年は現役でいたい。それも、第一線で



タイトルを狙える力をもち続けたいと思っています。その意味では、中原(誠)先生あたりは偉大なる目標ですね。

震災でみつめ直した原点

——ところで、阪神大震災から二年がたちました。また思いを新たにしていraftしやるのではないかと思います。

畑崎 つい最近もある新聞社が電話取材してきたんやけど、どの角度から聞かれるかによって答え方も違ってくる。大変むつかしい時期にさしかかっていると思いますね。よくぞここまで来たという気持ちと、まだまだこれからやと言う気持ちと……

谷川 今の時期、確かに二つの局面がありますね。復興した観光都市神戸を見てもらいたいし、震災後新しくできた観光スポットもあるからぜひ遊びにきてくださいという気持ちがある一方、仮設住宅で厳しい生活をしている方も多くいらつしやるわけですから。

畑崎 マスコミはどちらかというと、厳しい面に重点を置いて報道するし、テレビなんかでもそういう映像が流れる。それだけを見るとどうしても、ああ、まだ行ってもあかん、となる。そうなる、いえそんなことはありません。

ぜひ来てくださいと言いたいんやけれど、困ってる方がたくさんおられるのも、これまた現実やしね。その意味でも谷川さんが、自分が将棋に勝つことによって神戸が注目されるのはありがたいと言っておられたのはすばらしいと思いましたね。自分にとつての勝ち負けだけやなしに、それを神戸との関わりの中で考えておられる……

谷川 せっかくこうして神戸に生まれ育つたわけですから……。でも、正直に言ううと二十歳ごろは神戸にこだわる気持ちはなかったんです。将棋もやはり中心は東京ですから、わたしもいずれは東京へでていつて勉強しようと思っていました。ところが、震災を体験したことで、逆に神戸に住み続けようという気持ちが強くなって……

畑崎 うれしいことやね。うちもたまたま神戸でスタートしたので、神戸で生まれ育つた企業であるということを実にしよう、と。新聞社なんか、もうボツボツ東京へ本社を移されるのではと、しょつちゅう聞いてくるんですが、いえ、うちは神戸にすることを誇りに思っていますといひ続けてるんです。そういうこだわりをもっているというのはいいと思うな。

——震災の体験を通して何かを見つめ直すということもあつたのではないですか。谷川さんも被害をお受けになったのでしょうか。

谷川 家は大丈夫だったのですが、地震の二日後に大阪へ出て、その翌日が対局だったんです。

畑崎 うわあ、それは大変や。よくできましたね。

谷川 確かに大変なときはあつたんですけれど、盤の前に座ったとき、将棋が指せるだけでいいと心から思つたんです。でも、それはわたしの原点なんですね。この世界に入ったときは、将棋を指せること自体がうれしかった。それを職業にできるだけで幸せだと思っていました。ところが二十年もたつと、最初の志に立ち戻るのがなかなかむつかしくなつてしまふ。そんなときに、あの地震、だったんです。



畑崎 それ、わかるなあ。ぼくも、長い間ファッションビジネスに身をおいていながら、実のところ「ファッションとはなにか」ということが、必ずしもよくわかっていなかったことに気づいた。震災のとき、ファッションは実需品ではないから、これは売れない、大変だと思った。ところが震災のショックからようやく抜け出したころ、お店のウインドーをのぞき込んでいる嬉々しい顔を見ていて、女性たちのおしゃれというのは、悩んだり困ったりしているときに人の気持ちを和らげたり、勇気づけたりするものなんだ、ということを感じました。われわれの仕事はこんなに皆さんの役に立っているんやということを再確認しましたよ。ああ、すばらしい職業に就いているんやな、と思いましたね。

谷川 実はわたしの両親が、家が潰れて親戚に世話になったんですが、その見舞いに食料品や水などといっしょに口紅を持っていたんです。

畑崎 素晴らしいアイデアですね。

谷川 妻の発案だったんですが、こんな大変なときだからこそ、きれいにおしゃれをしたら明るい気分になるだろう、と。

畑崎 もうひとつ震災体験の収穫は、活力に富んだ企業群

があることが街を生き生きさせるし、人も集めるのだという点を再認識したことですね。企業ががんばっていくことが街への貢献になる、という……。もともととがんならなくて、という気持ちを以前に増して強く持てるようになって、会社自体も非常によくなってきた。おしゃれを創造する企業・ワールド、を貫いてね。

経営者と棋士、「社員」と「駒」は共通項

畑崎 谷川さんは、攻めが速いというので有名ですけど、一手一手にかける時間というのは、どんなものですか。

谷川 将棋は持ち時間が決まっています、一番長いのは一局九時間。相手にも同じ時間があるわけですから、合わせて十八時間、二日にわたってやるんです。そのくらいになると、一手にかなり時間をかけることもできるんですが、既して一時間以上も考えた手というのはいい結果がでないです。三、四十分でひとつの決断をして、また何手か進んで岐路に立ったところで考える、と……。

畑崎 あまり早く時間を使い過ぎててもいかなでしょう。時間配分を考えるだけでも疲れような気がするなあ。

谷川 ええ。でも、勝つか負けるかによって疲れ方は全然違います。

畑崎 勝ったら疲れが残らない？ゴルフといっしょやなあ（笑）。仕事もそうやね。うまくいってるときはどんなに忙しくてもあまり疲れないけど、成績の上がらないときは疲れてねえ。しかし、将棋は負けたら収入はちよつと減るかもしれないが、損はしないでしょ。われわれの商売は、売れんとすぐに在庫の山。読みが当たらなかったというショックに損まで付いてくる（笑）。

谷川 将棋でも人と同じことをやっていればある程度のこととはできますが、それ以上にはいかない。人真似でトップには立てないですね。何か新しいものを目指さないと……。それは、どんな世界でもいっしょではないかと思えますね。

烟崎 指す相手によってクセみたいなものもあるでしょう。対局前には相手を研究したりなさるんですか。

谷川 たとえば羽生さんが相手だとしたら、最近の傾向を調べてどういう形になるかをシュミレーションしたりします。ただ、あまりやり過ぎるとそれが先入観になって新しい発想がでてこない。調べるだけ調べて、それをも



「そのうち将棋の弟子入りさせてもらいます」 烟崎さん（右）と谷川さん（左）の握手

う一度まっさらにするということが必要なんです。しかしこれがむづかしい。どうしてもこたわってしまうんですね。

烟崎 将棋を見て最近思うのは、とくに若い社員に将棋の駒のような人が増えてきた、ということです。つまり、

すべての面に力を備えているというのではなく、ある分野に非常に秀でているという……。ちょうど、香車が真つすぐ進むのは得意やけど横はあかん、というようにね。駒を動かすのと同じように、社員全員を得意の分野でちゃんと生かしてやるのができたら、すごい会社になるやろうな、と思いますね。将棋ではそれが大切なんですよ、駒を組み合わせながらそれぞれを生かしていくというのが。

谷川 一枚でも動かない駒があると勝てないですね。ただ駒の価値というか、それは状況によって変わってくるんです。もちろん、玉が大事というのは変わりませんが、飛車、角、金、銀、桂、香、歩と、一応基準になる価値の順位みたいなのはあります。しかし、ある局面では順位の低い駒のほうが高いのより価値があるというふうな、逆転することがよくあるんです。

烟崎 坂田三吉の「銀が泣いている」やないけど、うちの会社にも泣いているのがたくさんいるんじゃないかな。なんでもっと上手に生かしてくれんのか、と……笑。皆が納得して生き生きと動いてくれるようにもっていくというのが、経営者の一番苦労するところやね。

良いとき、悪いとき、節目にはやはり酒

——うん蓄のあるお話をいろいろかがってききましたが、このあたりで本題に戻って、お酒の効用とは、というあたりをお聞かせください。

烟崎 まず第一に楽しくなるよね。ぼくはリラックスして飲みたいほうだから、家で飲むのが好きですね。風呂あがりに裸で飲むのが一番笑。

谷川 わたしもお酒そのものは好きなんですけど、量はほんの少し。ビール一本で十分という程度です。結婚してから三宮などに飲みに出ることもほとんどなくなりました。

烟崎 飲み屋もあちらこちらにまんべんなく顔だすのは大変ですよ。ちよつと間があくと、どつかよそへいってたんでしよう、と言われるし。

谷川 久しぶりね、なんて言われるだろうなと思うと、ますます足が遠のいたりして。

烟崎 外で飲むのもおつきあいだからいくらかは行っておくほうがいいけど。でも、棋士の方は対局がしょっちゅうあるから、飲むのほうもそれに左右されるでしょ。谷川 平均して週に一局くらいはありますが、やはり負けたときは…。どうやってそれを忘れるかというと、お酒の力を借りるのが一番でつとり早いですね。いつまでも負けを引きずっていると、次の対局に影響しますから。烟崎 忘れる、というのは確かにお酒の大きな効用ですね。ファッションビジネスというのは、世の中の流れとか、空気、気配のちよつとした変化にも影響されるから、いつも神経を張りつめていなくてはならない商売なんです。が、四六時中緊張しっぱなしというわけにはいけません。

めざすは

おしな創造企業

烟崎 宏敏

春風 駒馬 斎

1997. 1. 16

1997. 1. 16

そんなとき気分を切り替えるのはやはりお酒ですよ。谷川 悔しい負け方をしたときも、一杯飲めば、またこの次があるじゃないか、という気分になれる。勝ったときは勝ったときで、自分が一番強いような気になったりして…(笑)。—お酒はどんな種類がお好きですか。烟崎 お酒なら何

でも好きだけど、最近は日本酒が多いかな。娘が陶芸をやっていて、ぐい飲みやら酒杯やらつくるのでそれに合わせてね。お父さん、この料理にはこのぐい呑みね、とか言われて、ぐい呑みをほめ、料理をほめながら…。これがまた、すすむんやな。

谷川 わたしは日本酒が一番おいしいと思うんですが、家では妻とワインをちよつと飲んだりします。

烟崎 飲むと、コミュニケーションがスムーズになるでしょう。素面なら言えないことも言う、抑えるべきところもちよつと余分に言う。衝突することもあるけれど、そのおかげでかえって親しくなれることも多いしね。酒は人間を正直にさせるんでしょうね。棋士さんたちは、一門が集まって飲む、というようなこと、よくあるんですか。

谷川 昔はよくあったようなんです。最近はありません。烟崎 今の若い人たちはちよつと違ってきているのかなあ。：年齢の話に関連したことやけど、実は去年還暦を迎えたもので、どこへ言ってもその話題でね。で、還暦っていったい何やろうといういろ考えて…。で、ぼくなりに出した結論は、六十歳という、いろんな経験を積み、社会的にもそこそこの地位にある年齢になると、少々間違ったことを言っても他人は反論せず黙って聞いてくれる。だから逆に今までのようにオレがオレがと言っていた道を誤ることがあるよ、と自戒するのがこの年齢やないのかな、ということ。六十歳まできたら、また一歳に戻って、周りの方は皆先輩、と思つて、素直にお話を聞かせていただくという心をもつことが大切やな、とね。谷川 なるほど…。

烟崎 話がそれたけど、お酒というのはこんな話、あんな話しながら、まあまあといっているうちに、本当にまあまあ仲良くなってしまうもので…。どうぞこれを縁に仲良くしてください(笑)。

〈ワールド本社社長室にて〉

97年神戸酒徒番付選考座談会

西／経済人〈審査員〉

木下 健 〈三富商店取締役社長〉

寺本 滉 〈淡路屋取締役社長〉

角田嘉宏 〈有古特許事務所長〉

前田篤良 〈神戸新聞経済部長〉

震災復興二年目厳しい経済界



木下 健さん



寺本 滉さん



角田嘉宏さん



前田篤良さん



震災後二年目を迎え、日本経済も停滞したまま、神戸の産業界の復興も難しいといわれている。そんななか、「ブルーウェーブ」日本一、「ヴィッセル神戸」のJリーグ昇格、ワールドサッカー二〇〇二年の会場決定といった明るい話題もあった。

今後の神戸経済界を占う場合、高齢化社会を考慮に入れる必要がある。番付の定年制度も今年度から一年づつ延長していくことにしたい。

A 明るい事柄が神戸ではあったが景気はやはり震災の影響で立ち遅れているね。中小零細企業が特に。全体的に株も下がりがりっぱなした。

B 狂牛病から〇―157と食品業界はダメージをうけた年だった。

C マクロ的には産業空洞化という問題が底流にあつて、景気の回復を



北野クラブにて

スムーズにさせない大きな原因になってます。来年にかけて、エンタープライズゾーンなどいろんなプロジェクトを提唱していますが、苦しいときにこそやっていくべきでしょう。

D 産業空洞化についていえば、アジアセンター構想がある。これは県が主体となって経済同友会がおこそうとしてます。産業空洞化を現象として認めて、適正な海外進出と逆に日本への企業進出に対応しようというものです。

Iではこのへんで番付審査に入っていただきますよう。

★日銀の実力派、パソナの新人

A 新しく活躍している人といえは日銀神戸支店長の額賀信でしょう。神戸復興支援のために、観光キャンベーンとして一万人の従業員の層に神戸観光を呼びかけるということを実施されています。

C 額賀さんは神戸経済を分析するようなレポートもだしていましたね。前の日銀神戸支店長の遠藤さんほど派手さはないが着実にやっていますね。

B 若い人ではパソナの南部靖之です。関西ー長江プロジェクトでもいち早く手をあげています。

D 復興、復興で新しいことになかなか力を入れにくい中、ハーバーサークラスの一坪シヨップなど震災後一番元気で目立っています。

B 神明の藤尾益也も目立っていた。西宮に米の販売自由化に備えてがんばっていたね。

C オリバーソースの道満雅彦もユニークな存在。五代友和は経済同友会での動きが目立っている。

A 高嶋良平も甲南漬を立て直してよくがんばっている。ーそろそろ役の選出を。

★大きな変動なし実力安定か

A ワールドの畑崎廣敏社長は定年延長ということで、今年も横綱の地位は安泰でしょう。

D 今年のJ C理事長はシャルマンの三條慶弥、頑張りを期待して十両。南部さんは初登場ながら小結に抜擢したい。

C コトブキの細谷俊雄もコトブキ馳走ビルを三宮にオープンして賑わいが戻ってきた。前頭あたりにきてもらおう。他にもオープンした店はお菓子屋さんが多い。やはり神戸は製菓業が強いね。

ー下から上についていただきたい方と三賞の選定に入りましょうか。

D 和田憲昌も相変わらずディベロップパーとしてトップクラスの活躍をしているというところで小結から張出閣脇にあげよう。

A 前年度理事長の伊田昌弘は御苦労さんで敢闘賞というところですね。

B 殊勲賞にやはり四月にハーバーサークラスもオープンし、一番目立っている南部靖之だね。

C 技能賞はファミリアが今年ミュージックホールを建てたりと文化面での功労ということで岡崎晴彦でどうでしょう。

ー定年の延長ということで、番付に大幅な変更はなかった。神戸の経済界も今年が正念場となるだろう。

97年神戸酒徒番付選考座談会

東／文化人〈審査員〉

武田 則明 〈建築家〉

伊藤 誠 〈美術評論家〉

有井 基 〈フリーライター〉

躍進目立つ若手



武田則明さん



有井 基さん



伊藤 誠さん



昨年の神戸は震災復興が徐々に進み、新たな活動がみられた。番付編成を通じて昨年の文化活動を振り返ってみよう

★盛り上がったスポーツ界

A スポーツ界は盛り上がったね。オリックスは、悲願の日本一を遂に

達成した。巨人を破り、しかも神戸で胴上げをした。今年もイチローは、大活躍したね。

B ヴィッセル神戸のJリーグ昇格も決まった。神戸っ子の永島昭浩はよく頑張った。

C 将棋では谷川浩司。羽生善治に七冠を許したものの年末には竜王を奪取した。

B 内藤国男もCMで頑張ってるね。
A 神戸製鋼ラグビー部の平尾誠二も根強い人気だ。彼の著書は経営陣によく読まれている。

C 小山乃里子は議員としてよく活動している。大関に似合う年になってきた。彼女はシンポジウム等で熱弁をふるうんだけど、人の話のときはよく寝ているんだ。(笑い)。

酒特集②

B 大森一樹は映画「わが心の銀河鉄道―宮沢賢治物語」を作った。なかなかトークもうまくなり、風格が出てきた。

A 三役はどうなるだろう

B 仰木監督は定年だから、イチローを一気に大関に持っていききたいね。

C そうなると、横綱は谷川か。

A 番付があがりそうなのは誰だろう。

B 若柳吉金吾は十回公演を達成し、次は新神戸オリエンタルで五回公演をと、意気盛んだ。

C 兵庫県芸術奨励賞もとった。上にあげたいね。

B 女性でよく頑張っているのは、浅木隆子だね。旧ホワイトハウスをガラスコレクションの北野美術館として魅了せた。

A 佐々木湘ことたつみ都志の旧谷崎邸「鎖瀾閣」保存運動もよくやっている。

B 新谷瑠紀は両親を亡くされた後は元気がなかったけど、神戸にアトリエを戻し、いよいよ復活したね。

張出小結にしよう。妹の英子も元気を出して欲しい。

C 村上和子は、洋菓子天国KOB E展で、井植文化賞を受賞した。

B 杉山知子の居留地での活動を頑張っている。

A 松本幸三は、ファミリーでリサイタルを開いた。息子も父親譲りのテノールで良い声をしている。

B 木下直之の辛口で神戸的な評論は健在だ。

C 河内厚郎も阪神間文化復興の提案を行っている。

A 市民まちづくり支援ネットワーク事務局として小林郁雄も地道な活動を続けてロードニー賞を受賞した。

C 海文堂の島田誠はアートエイドで神戸と東京をネットワークした。

B 文芸界はすこしさみしかったね

A 岡田淳の作品には、神戸のにおいがする。久々の作・絵共の「ネコとクラリネットぶき」夢があるね。

★有望な若手が続出

A 新入幕はどうだろう

C 好評だった神戸映画100年祭をプロデュースした因幡新平をあげたい。

A 震災関係だと、三条杜夫の被災したAM神戸の活動を記録した「いのち結んで」は迫力があつたね。

B 青池憲司は、震災後ずっと鷹取を撮り続けている「人間の街 野田北部」鷹取の人々」も3部までできた。

A 鷹取の復興というと建築の分野で森崎輝行がよく頑張っている。

B 「自立建築」を提唱している林英雄もおもしろい。

C 神戸大学の山懸照も評論が面白い。

A ファッション界では石原暁美が女性初のKFS会長になった。

B 彼女はセンスはいいし、飲みっ

ぶりもいいんだ。

B 若手では春待ちバンドの澤村重春。自身のライブハウスが全壊したけど、市内の保育所を演奏して回り、被災地を元気づけている。

A 涌嶋克己のガッツくんTシャツ。トレンディドラマでキムタクが着用し、一躍全国的に有名になった。

C ヴィッセル神戸の永島もいれなきや。ハンサムやしな(笑)。

B 新入幕でいきなり前頭中位だ。

A 俳句界の若手、叶夏海も力量があるね。

C 小栗康平監督の「眠る男」をプロデュースしたのが増沢空だ。

B 天使の絵の寺門孝之もいい。

C 取組場所のでつさんが50周年のパーティ大成功も凄かったね。

A 宝地院が復興して宝地院大学の忘年会も神戸文化の粋だった。

A 三賞はどうだろう。

C 殊勲賞は永島昭浩として。

B 敢闘賞は因幡新平かな。

A 技能賞はやっぱり浅木隆子でしよう。

B 新入幕の人も増えたね。

C 振り返ってみると、震災をきっかけに様々な活動を始めた人たちが実を結びかけている気がする。

A これが神戸の新しい文化となっ

て欲しいね

(敬称略)

附

平成九年

司

園田	樽本	瀧川	田崎
正和	久	博司	俊作

締役

木口 鬼塚 柏井 中内 秋田
衛 喜八郎 健一 功 博正

進元

神戸つ子
編集室

西〈經濟人〉

張出小結	額賀	信	金融
張出小結	木下	章夫	(真珠)
小結	南部	靖之	(流通)
張出閑脇	嘉納	秀郎	(消遣)
張出閑脇	和田	憲昌	(不動産)
閑脇	細川	数夫	(纖維)
張出大閑	川西	章二	(倉庫)
張出大閑	乾	英文	(海運)
大閑	井手	正敬	(鉄道)
張出横綱	上島	達司	(珈琲)
張出横綱	伊藤	研一	(食品)
横綱	畑崎	廣敏	(纖維)

前頭筆頭 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前 前

岡崎	五代	西河	岩田	西村	勝尾	大倉	塚本	河本	小林	小田	吳	水垣	井植	吉岡	細谷
晴彦	友和	紀男	弘三	隆治	益也	昊	哲夫	武	博司	俱義	信就	宏隆	貞雄	昭一郎	俊雄
（織維）	（鉄鋼機械）	（運輸機械）	（食品）	（清酒）	（食品）	（化粧品）	（食品）	（製菓）	（貿易）	（織維）	（南京時代）	（食品）	（船舶）	（電機機械）	（飲食）

十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

三條	慶弥	仁	耕一	理	喬二	誠之	洋三	雅彦	音吉	啓修	正	喜彦	良平	俊子	昌弘	伊田
(飲食)	(飲食)	(ホテル)	(家具)	(飲食)	(清酒)	(教育)	(真珠)	(食品)	(纖維)	(旅館)	(ホテル)	(繊維)	(食品)	(製菓)	(建設)	

技能賞	岡崎 晴彦
敢闘賞	伊田 昌弘
殊勲賞	南部 靖之

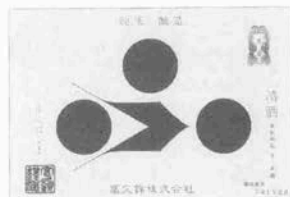
勝負検査役

石沢菊山市杜奥川
阪井水本野山村上
春修啓泉弘悠孝勉
生一輔之

〈西方〉 取組場所

足寄、飛騨、アルバート・ス・北野、ラフ・トキン、エ・小方、土岐、セシントン、タム、オレン、ルゴール、アダルト、モンペル、エ・ミレー、ラファエル・シャラン、ゼンゼ・大木、マイセン、カザブ、リンカ、かけい、増田、マシユナタ、ルビニ、フリー、ツシユハート、ニューソネ、バイロ、フィン・フジャー、ニース・レ、ルドア・レババ、輝光、ロー、ルトレイ、詩（おふ）、ニューム

番附審査				呼出
前田	角田	寺本	木下	小泉
篤良	嘉宏	滉	健	康夫



地酒という言葉には色々な解釈がありますが、私たちは、地元の米と水、そして地域の人によって醸される良質の酒を地酒と呼んでいます。富久錦は「人と自然の調和」の理念の基に、地元の米・水・人を大切に、地域の共感を得ながら、純粋な酒造りに励みたいと思っています。

兵庫県加西市三口町一〇四八 富久錦株式会社
云〇七九〇（四八）二一一

★「沢の鶴資料館」
(大石蔵) から
「船場」跡発見



沢の鶴資料館は、1999年春の完成予定

木造の酒蔵は震災でほとんどが全壊したが、その再建中に珍しい発見があった。再建に向けて発掘調査中の県重要有形民俗文化財「大石蔵」(沢の鶴資料館)で見えたもので、大正から昭和初期につくられた地下室構造の「船場」(もろみから酒を搾る作業場)。日本酒の歴史を知る上で貴重な発見で、一九九九年春ごろの完成に向けて再建中の「資料館」で公開される予定。

また「資料館」完成までの間、「酒蔵資料室」がオープン。神戸市内観光バスコース等の予約が必要だが、昔の酒造りの道具の展示や酒造りの工程がわかるビデオ

コーナー、仕込みの期間中には、近代的四季醸造蔵「瑞宝蔵」が見学できる。
■沢の鶴株式会社
神戸市東灘区新在家南町5・1・2
TEL 078・8811・1234

★「白鶴酒造資料館」
今春再オープン



震災前のままの姿で今春再オープン

大正末期に建てられ昭和44年まで1号蔵として使われていた「白鶴酒造美術館」も全壊したが、8割以上残った木材を使って震災前そのままの姿で今春再オープンする。

伝統を継承しながらの新しい試みも商品化されている。日本酒に最適な酒米「山田錦」の母にあたる「山田穂」の純米吟醸がそれで、昨年五千本つくったがほとんど売り切れ。限定醸造のため、今年は秋ごろにお目

見える予定。待ち遠しいですね！

■白鶴酒造株式会社
神戸市東灘区住吉南町4・5・5
TEL 078・8222・8903

★全国清酒鑑評会金
賞受賞蔵
「浜福鶴吟醸工房」



酒造り体感空間「浜福鶴吟醸工房」

昨年3月にオープンした「浜福鶴吟醸工房」は、酒造り体感空間。ここでしか公開されていないという「もろみ仕込み」の工程など、伝統の酒造りの全工程が見学できる。

伝統の技にふれたあとは、お楽しみ、試飲コーナーでしぼりたての生酒が味わおう。おみやげは、工房限定品のしぼりたて生酒「生子」に決まり。美味です。

■浜福鶴吟醸工房
神戸市東灘区魚崎南町4・4・6
TEL 078・4111・0429

★生酒フームは
「金杯」酒蔵見学会から



生酒のバイオニア「金杯」

伝統の日本酒文化にふれることのできる酒蔵見学会。メーカー側にとっては消費者のニーズを直接知ることのできる機会でもある。いまの生酒人気も、見学会で生酒を味わったお客さんの声を取り入れた「金杯」が昭和51年に商品化したことから始まったという。「こんなお酒が飲みたい」。どんどんリクエストしてみよう。

■金杯酒造株式会社
神戸市東灘区大石東町6・3・1
TEL 078・8711・5251

清酒 大関

まず、ひと口ふた口、肴なしで飲む。



創業者がつくりたかった味。

大吟醸酒 大坂屋
長兵衛

超特撰 大吟醸酒

1.8Q瓶詰 3,750円

720ml瓶詰 1,660円

300ml瓶詰 780円

180ml高級瓶詰 570円

※価格はメーカー希望小売価格です。(消費税込み)

大関株式会社

未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
お酒はおいしく適量を。